
キーパーソンが超高齢者である透析患者の家族支援

医療法人衆和会 長崎腎病院

○藤原久子 林田めぐみ 久原拓哉 河津多代 澤瀬健次 橋口純一郎 原健二 原田孝司 船越 哲

【はじめに】

長寿社会である本邦では、超高齢者が主たる介護者で、その子である透析患者を看ている場合がある。今回は2症例を報告し考察していきたい。

【症例 1】

71歳女性、主疾患は糖尿病性腎症(2015年に血液透析導入)と認知症。家族構成は患者、弟、キーパーソンは超高齢の95歳父親。

【症例 2】

67歳男性、主疾患は慢性腎不全(2010年に血液透析導入)と統合失調症・感情障害など。家族構成は患者、弟、キーパーソンは超高齢の90歳母親。

【具体的支援内容】

2症例とも同様の対応を行った。(1)各種申請の支援、(2)関係者への病状説明等、(3)介護保険関係の支援、(4)退院・外来透析継続支援、(5)相談窓口、等

【結果・考案】

超高齢キーパーソンは患者、つまり実子に対して強い思い入れがあり患者の生命予後にも貢献すると思われる。しかし、超高齢であるための身体・精神・社会的な限界があり、これらキーパーソンの支援においては、より高レベルで細やかな対応をする必要がある。